

「北日本新聞」8月16日一面の終戦70年平和哲
うの記事を読んだ

高岡西高校 二年 堀内 香歩

十五日に日本は終戦から七十年を迎えまし

た。私は祖父や祖母に戦争の体験をあまり聞

いたことがなかった。父も正直どのような状況

だったのか知りませんでした。これには「だ

だ」と思い今日の機会に祖父に話を聞いてお

きました。祖父は戦争を聞いた頃、まだ小さ

くて実際に戦争には行かなかったことでした

た。レカレ、食べる物もなく衣服もボロボロ

な物に着ていて今は考えられないような生活

を送っていた。父も「それ、いつ攻め

られるかわからない。毎日怯えながら生活して

いた。もうです。私はこの話を聞いて、今も世

の中の平和を改めて思い知りました。毎日

必ず三食、食べることができ、安心して外を

歩けるというのにはごく当たり前前の事だと思

え、それだけ状況下生活下まいてるんだと思

います。

した。毎日、爆弾に怯えながら生活する恐怖
 心に計り知れませぬ。しかし、私たちがこの
 恐ろしい出来事下有る戦争として、かり向き合
 ったいかたければならぬと思ひました。
 それで、首相には戦争の悲劇を繰り返さない
 ようにしてください。最近、
 「安全保障法案」という言葉をよく聞きます。
 私は、どうしてその法案が日本を戦争に導
 いたのかように思ひます。国民の意見として
 は反対意見の方が多いはずなのにそれを無視
 して法案を可決させようとしていろいろにむ
 思えまう。首相には、国民の意見をしっかりと
 受け取めてもらいたいと思ひます。
 そんなに首相が十四日に首相談話を発表しま
 した。何か言葉にばかり気を使つていろいろう
 下首相が何を言いたいのかわかりませぬ
 下した。かう少し首相の本当の気持ちを知り
 たかったなと思ひました。
 このように、この記事を読んで戦争の悲愴

バミエの改めようくわりました。戦争と
いうのは何の入りツトと成いただが人の殺
し合いたと和に思うようになりました。自国
の敵国は必ず大替の人が成くなりまう。土く
らると遺族の方にとり悲しい思いをしまう。
昔は一国のためだと言った胸を張って戦争
に行くといたようでもかかれはおかしいと思
うのでも人が国を守るの下になく国が人を
守れるような国を造るといかなくはならぬ
いと思うのでもこのようにな悲しい行いを二

度と繰り返さぬよう、今回和が祖父に戦争
の体験談を聞いたように、次世代に戦争の体
験談を継承していかねばならぬと思
いました。二度とこのようにな悲惨な行動を行
さぬいようにな。ただおたすりやれを祈るはか
り下す。